
あなたへ

ひばり

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あなたへ

【Nコード】

N2296C

【作者名】

ひばり

【あらすじ】

元カレとの思い出です。新しい彼氏がすきで、忘れようとするけれど、忘れられない…忘れてはいけない存在の元カレ

あれから七年。

久しぶりに夢を見ました。

あなたの夢。

私たちは手を繋いで仲良く歩いてた…

でも、あなたは私の手をはなしたんだ。

「マネージャー…！」

17歳の私より一つ年上のあなたは、私の事を名前で呼ばなかった。いつも、マネージャーと呼んでたよね。

そんなあなたが私を名前で呼んだのは、夏の大会に負け、終わった時。

「中崎っ…！」

びっくりした。

「俺と、付き合ってくれないかな…！」

さらにびっくりした。ずっとあなたに憧れていた。そんなあなたに告白され、付き合っことになるなんて…

毎日が幸せだった。廊下ですれ違う時や、食堂で会う時、あなたは私に笑顔を見せてくれた。

付き合いは順調にいき、一年が過ぎた。あなたは、19歳。卒業して就職し、私はもうすぐ18歳で、三年になり部活を引退。

休みの日は、あなたと時間が会ったびにいろんなところに行ったね。少しの時間でも、本当に幸せだった。

そして、幸せな時間は一瞬で消えた。

それは、2度目のクリスマス。

約束の時間が一時間すぎた。

周りはカップルだらけ。寂しさと、苛立ちに耐えた。

何度も電話するが繋がらない。

三時間が過ぎた。雪が降りはじめ、さらに寒くなった。その時、私のケータイが鳴った。

走った。持久走が大嫌いな私だったけど、全然きつさを感じなかった。ただ、あなたに会いたくて…

あの日、あなたは私のプレゼントを大事そうに握っていたそうですね。気付いてあげられなかったことが悔しい…

なぜ、病気のことを言ってくれなかったの？

私は泣いた。泣いても、泣いても、涙は枯れなかった…

あなたのお母さんが、クリスマスプレゼントを渡してくれました。

「ゆづの笑顔が大好き。
ずっと笑っていてね。」

そのメッセージカードを見て、涙が止まらなかった。
でも、あなたが好きな私はこんな私じゃないんだよね。

プレゼントは、キラキラと輝く指輪。あなたとペアだったみたいだね。

お葬式。とうとう、あなたとお別れするときが来ました。

そこで、あなたの友人が、手紙を渡してくれました。

「この手紙を読む時は、もう俺はいないはず……
病気のこと内緒にしてごめんな。仕事も本当はしてなかった。体調がいいときにユウと会ってた。ごめん。
きっとユウは泣いてるはず。だけど、泣かないで。俺は、大切な人が泣くの嫌だから……ごめんな……」

ますます涙が止まらない。
謝らないで……お願い、嘘だと言って。
でも、あなたが死んだのは現実だった。

火葬の時、雨が降り始めた。

きつと、あなたが泣いてるんだね。でも、私は笑つよ。

それから七年。

あなたを完璧に忘れたわけじゃない。

私ね、プロポーズされたの。

二年前から付き合ってる彼に。

いいよね？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2296c/>

あなたへ

2010年10月11日12時34分発行